



「言葉使い」になってない？

「コンプライアンスニュース」は、名称を「ちょこプラ」に改めリスタート！

今年も、コンプライアンスや風通しの良い職場関係を目指して気づいたことを話題にします。

どこかで聞いたような安直な名称ですが、ぜひお読みください。

「ことばづかい」

「ことばづかい」を漢字に表すと正しくは「言葉遣い」。なぜ、「言葉使い」ではないのかを色々調べてみましたが、難しくてよく分かりませんでした。そこで、最近お世話になっているA I君に「遣い」と「使い」の違いについて聞いてみたところ、とても興味深い内容だったので、今回は「言葉遣い」について考えてみたいと思います。

「遣い」と「使い」

「遣い」には、主に「心や気持ちを注ぐ」場面で使われることが多く、感情や抽象的なものに関する表現に適していて、「使い」には、「道具や物理的なものの具体的な行為」に用いられるという違いがあるようです。

自分の気持ちや考えを表現する「言葉」は、心を込めて自分の思いや考えを伝えるという意味合いから「遣い」の感じが使われているのではないかと私は考えます。

学習指導要領にも…

「言葉遣い」に関しては、学習指導要領に「教員に対して」の記述があるのをご存じですか？

言語環境の整備と言語活動の充実（第1章第4節の1の(2)）の解説に、「（略）…児童生徒の言語活動は、児童生徒を取り巻く言語環境によって影響を受けることが大きいので、学校生活全体における言語環境を望ましい状態に整えておくことが大切である。学校生活全体における言語環境の整備としては、例えば、教師との関わりに関することとして①教師は正しい言葉で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと、…（略）」とあります。（学習指導要領解説総則編：P225）

教員の教科書である学習指導要領にも「正しい言葉で話し…」、「児童生徒の言語活動は取り巻く言語環境に影響を受ける」とある以上、児童生徒の前で「ら抜き言葉」や「荒い言葉」、「呼び捨て」などは、たとえ冗談でも使えませんよね。

言葉は「言霊（ことだま）」

言葉は「言霊」とよく言われます。言葉には霊力が宿っており、発した言葉どおりの結果が表れるという古代日本で生まれた言葉に宿る霊力（言霊）に対する信仰ですが、現代でも良い言葉をかけた植物は悪い言葉をかけた植物よりよく育ったという実験結果もあるようです。

様々な「言葉」を用いて児童生徒一人一人に対して指導していく教員にとって、言葉に気持ちや心を注いでいくことはとても大切なことだと思います。ぜひ、言葉を消費するだけの「言葉使い」ではなく、相手を想い心を注ぐ「言葉遣い」ができる教員になってほしいと思います。

「言葉」は、自分の心の中を写し出す鏡とも言われています。新学期が始まったこの時期、自分の「言葉遣い」を改めて見直してみませんか？